

パブリックコメントで寄せられた意見の概要及び市の考え方

平成29年11月15日から12月15日までの間、海津市地域強靱化計画（案）について意見等の募集を行った結果、1人の方から15件の意見等をいただきました。これらの意見について適宜要約したうえ、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方を次のとおり公表します。

頁	意見の概要	件数	頁等	市の考え方
第1章「強靱化の基本的考え方」 1 目指すべき将来の地域の姿 について		1件		
P.5	事前復興のあり方を考えるとあるが、具体的にはどのようにするのか。	1	P.19 2.2 P.29 重点化施策項目2 P.46 7-3) P.49 2) P.71 7-3)	<p><u>2.2.4（災害に強い地域のグランドデザイン）</u> ○ <u>長期的かつ多角的視野から安全な地域づくりに向けたグランドデザインについての議論を促進し、地域全体の合意形成を目指す。【危機管理課】</u>を追記します。</p> <p><u>災害に強い地域のグランドデザイン</u>を追記します。</p> <p><u>（災害に強い地域のグランドデザイン）</u> ④ <u>長期的かつ多角的視野から安全な地域づくりに向けたグランドデザインについての議論を促進し、地域全体の合意形成を図っていく必要がある。</u>を追記します。</p> <p><u>（災害に強い地域のグランドデザイン）</u> ○ <u>長期的かつ多角的視野から安全な地域づくりに向けたグランドデザインについての議論を促進し、地域全体の合意形成を図っていく必要がある。【7-3-④】</u>を追記します。</p> <p>④ <u>長期的かつ多角的視野から安全な地域づくりに向けたグランドデザインについての議論を促進し、地域全体の合意形成を図っていく必要がある。【危機管理課】【2.2.4】</u>を追記します。</p>
第4章「脆弱性評価」 2 「起きてはならない最悪の事態」の設定 について		4件		
P.14	現在の準備状況で「起きてはならない最悪の事態」が避けられる状況になっているか。また、避けられない場合、具体的な対策で、	1	P.14	国のガイドラインを参考に策定しており、脆弱性を洗い出した後に、対応方針について検討を重ねました。なお、計画期間内であっても、修正の必要が生じた場合には、見直しを行います。

	「このうちの1つができれば避けられる」のか、「これら全てができないと避けられない」のかが判断できる形になっていない。 結局の所、「起きてはならない最悪の事態」を避けることはできない（戦略が明確でない）。			
P. 15 2-2	孤立集落の発生は、起きてはならない対策か。孤立してもその集落の人の生活が危機的な状況にならなければ許容範囲と考える。	1	P. 35 2-2) P. 47 1)	(道路ネットワークの整備) ① 災害時における <u>長期的な</u> 孤立集落の発生は・・・に修正します。 (道路ネットワークの整備) 同上
P. 15 4-1	サプライチェーンの寸断等による経済活動の麻痺等は市の計画として何とか出来る事か。対象部分を明確にした方がよい。	1		具体的行動計画については、アクションプランにて明確化していきます。
P. 15 5-2	これらの分断は避けられない。「絶対避けるべき範囲」は「長期」という事か。	1		具体的行動計画については、アクションプランにて明確化していきます。
第5章「強靱化の推進方針」について 2施策分野ごとの強靱化の推進方針 について 6件				
P. 17 2.1.2	道路ネットワークの整備について、整備だけに着目せず、復旧やメンテナンスについても考えた方がよい。現在は住民による維持管理も進みつつある時代であるから、こういったことも導入していくとよい。	1	P. 18 2.1.2 P. 68 5-2)	(道路ネットワークの整備) ○ 本市においては、・・・道路ネットワークの整備を着実に進める。 <u>なお、維持管理にあたっては、市民の参加・協力を検討する。【建設課】</u> を追記します。 (道路ネットワークの整備) 同上
P. 20 2.4	居住地域の安全性向上という視点で、居住に適した地域への誘導や集住についても考慮した方がよい。	1	P. 19 2.2	災害に強い地域のグランドデザインを検討していく中で考慮します。
P. 21 2.5.3	医療は急性期だけではない。 日常からの介護予防や健康維持、災害発生後（避難所生活や仮設住宅、復旧復興期まで含めて）の介護予防や健康管理についても考慮した方がよい。	1	P. 21 2.5.3 P. 37 2-4) P. 52 5)	○ <u>災害発生後（避難生活や仮設住宅、復旧復興期まで含めて）を視野に入れ、常日頃から「生活・身の回りのことについて」「病気・介護の予防」「こころの健康保持」などライフステージに応じた対策を検討する。【健康課】</u> を追記します。 (地域医療体制の確立) ⑩ <u>避難所生活が長期に及ぶ場合があります、その際に様々な健康への影響が懸念され、常日頃より対策を検討する必要がある。</u> を追記します。 (地域医療体制の確立) 同上

			P. 64 2-4)	(地域医療体制の充実) ⑪ 災害発生後(避難所生活や仮設住宅、復旧復興期まで含めて)を視野に入れ、常日頃から「生活・身の回りについて」「病気・介護の予防」「こころの健康保持」などライフステージに応じた対策を検討する。【健康課】【2.5.3.】を追記します。
P. 22 2.6.2	他のところで橋が落ちるとい話をしつつ、企業誘致というのが矛盾している。	2		強靱化計画は、防災だけでなく、「東京一極集中からの脱却」や「産業の創出、強靱化は成長戦略そのものという考え方に基づくもの」です。
2.6.4	啓発は対策につながらない。		P. 22 2.6.4	働きかけるに修正します。
P. 25 2-10	マップの整備などが中心だが、使い方やタイムラインを導入した活用、協働の場づくりなども考慮した方がよい。	1	P. 25 2.10.1	ハザードマップ掲載事項欄にハザードマップを作成し、使い方について市民等に周知する。を追記します。
			P. 26 2.10.4	○ 国土強靱化を図るうえで・・・充実を図る。また、災害時に連携した対応を行うため、国・県・住民などとの協働によりタイムラインを策定する。【危機管理課】を追記します。
			P. 60 1-1)	上記P. 25 2.10.1と同じ
			P. 61 1-3)	上記P. 25 2.10.1と同じ
			P. 62 1-4)	上記P. 25 2.10.1と同じ
			P. 62 1-5)	(訓練と防災教育の推進) ④⑧ 上記P. 26 2.10.4と同じ
第6章「計画の推進」(重点化施策項目)について		1件		
P. 29	重点化施策項目に「連携の促進」を入れるべきでは。	1	P. 26 2.10.5	(地域の防災力強化)を(地域の防災力強化と連携の促進)に修正します。
			P. 29	10. 地域づくり・リスクコミュニケーション 同上
			P. 64 2-3)	同上
			P. 72 7-4)	同上
別紙1「起きてはならない最悪の事態」ごとの脆弱性評価について		3件		
P. 30	地震ハザードマップの整備内の⑩「新たな	1	P. 30 1-1)	(地震ハザードマップの整備)

1-1)	手法が開発されている。検討が必要。」とはどのようなことか。			⑪・・・予定である。 <u>今後、ハンドブックの使い方など市民への周知が必要である。</u> に修正します。
			P. 53 8)	同上
P. 38 目標 3	行政機能が低下するにあたって、受援についての考慮はないのか。	1	P. 24 2. 8. 5	(広域連携の推進) ○広域避難や・・・強化を図る。 <u>また、受援を想定した体制整備について、検討を進める必要がある。</u> を追記します。
			P. 38 3-1)	(広域連携の推進) ⑤広域避難や・・・必要がある。同上
			P. 55 8)	(広域連携の推進) ○広域避難や・・・必要がある。同上
			P. 65 3-1)	(広域連携の推進) ⑤広域避難や・・・強化を図る。同上
P. 45 7-2)	一般ボランティア(社協ボランティア)を前提とした記述に留まっているが、役所職員などのOB・OG、専門職ボランティア、NPOなどのエイドワーカー、作業ボランティアについても考慮するべきと考える。	1	P. 24 2. 8. 6	(災害ボランティアの活動支援) <u>また、災害ボランティア活動の役割・機能とその存在の必要性から、その裾野の拡大とコーディネーターの育成に努める。</u> を追記します。
			P. 45 7-2)	(災害ボランティアの活動支援) ①被災家屋周辺の・・・必要がある。 <u>また、ハザードや脆弱性の違いによりボランティア活動に違いがあり、救援ボランティア、復興ボランティア、予防ボランティアといった各期が切れ目なく影響しあう必要がある。</u> を追記します。
			P. 56 8)	(災害ボランティアの活動支援) 同上
			P. 71 7-2)	(災害ボランティアの活動支援) P. 24 2. 8. 6 に同じ